要約

出来事

- ・西の監視塔にいるオネイローゲンを倒し霧の発生を食い止めた。これにより、全体の霧が薄くなった。
- ・西の監視塔の南側から、壁に穴をあけ、ウィンターキャンプへの通路を作った。
- ・ザンダラスの側近のアグラルミスが「不信心な」カルティストを虐殺した。
- ・mee と中の人はフィルスフィーバーで倒れてしまったが、FortST が高いので、次回は復帰するだろう。

基本方針

- ・ウィンターキャンプの存在はカルトキャンプでは大っぴらにしない。
- ・基本はカルトキャンプで泊まる。

新しい設定

- ・アグラルミスは、元この病院の患者で快樂殺人者だ。今はザンダラスの側近をしている。
- ・オネイローゲンは、自力で黄色い霧を出しているわけではなく、ポータル的な役割をしており、他次元界 DreamLand にある霧を透過しているだけだ。

次回の予定

- ・カルティストキャンプの 2F に行く。

ログ

アサイラム屋外

結局時化のため、海路 5 日もかかり、ようやく Thrushmoor に到着した。
テレポートサービスを使えば良かった、と今となっては後悔している。

そして、さらに数時間かけブライアストーンアサイラムに到着した。
あの悲劇から数年、衰えた私の眼でも分かるぐらい、もうすっかり廃墟になっていた。

足をよたつかせながら、北西からアサイラムに近づいて行くと、ようやくはっきりと建物の様子が私の眼にもうつりだした。

人影は無く、壊れた石壁には、苔が自らの縄張りを示すように、這いまわっており、不自然なほどに緑色の蔦と、またからっとした青空が、既に悲劇は歴史のかなたへの消え去ったのだ、ということを手を主張している。

安心したのもつかの間、突然瘴気が私を襲いかかり、私は震えが止まらなかった。走り去りたい衝動を抑えながら、良く眼を凝らして見た。

すると、そこは、空は黄色い霧で覆われていたが、私は、この時ほど、霧を通して視界を得られる自分の力を呪ったことは無い。

その霧の中は、あまりにも名状し難い形状の、また見るのもおぞましいほどの、奇妙な生物が闊歩していたのだ。

これは、過去の情景だ。私はそういうことに慣れている。自分に言い聞かせながら、足をすすめた。

北西の監視塔

初めにあった建物は、監視塔跡のようだ。

2階もあるようだが階段は崩れ去っており行くことはできない。

ここでも過去の情景が見えた。

3匹のグールが2Fの獲物を狙っているとおしげに壁を這いあがろうとしているが、上がることができない。

そんな中に、冒険者の集団が殴りこんできた。

冒険者達は何人もグールに硬直させられていたが、何とか倒すことができたようだ。

その後、ロープを使い、2Fに上がっていった。Flyを使えないなんて、何て低レベルなんだろう。

私もその過去の情景を見て2Fに上がろうとしたが、私にも空を飛ぶ能力が無いことに思い至った。

一人旅をしていることも後悔しながら、天井を見ながら力を込めた。

私の過去を見通す視線は、天井を突き抜けて、2Fまで到達した。

そこでは、口からあるいは眼、耳から黄色い霧を出している生き物を、カラスプレー1発で無力化している魔法使いが見えた。

これにより、霧は薄くなったようだ。

ウインターキャンプへの壁

部屋の壁には不自然に穴が開いていた。

穴は布で隠されていたようだが、布はボロボロになっていた。

どうやらキャンプが2か所あり、そこを接続しようとしたようだ。

シャワー室

ここは元シャワー室だった。きっと、お薬度高めのきらら系深夜アニメならば、きゃっきゃうふふで、不自然な光が入る系の話に使われるのだろうが.....例の冒険者達が突入した時には、死体が積み重なっている中で、血しぶきが飛び散っており、別の方向性で規制が入る光景だった。

玉座には、片腕のグールの王 Klades が座っていた。

切り離された左腕がペンダントのように首からかけられていた。

さらに過去を見てみると、Klades はかってこの病院の患者だったようだ。

自傷癖があり、グールになった後も、その病気が残っており、片腕を切り落としてしまったようだ。

グループセラピー部屋

ここはかってグループセラピーが行われていた部屋のようだ。

グループセラピーでは、まず自己紹介からはじまるようだ。

「あなたの趣味はなんですか？」
「……いや、なんですかね……？読書？」
「どういった本を読まれますか？」
「……何て言えば良いですかね？」
「私に聞かれても」
「……あ、いや旅行が趣味です」
「どこに行かれますか？」
「……え……いろ……いろ？」

さらに時代が進み、混乱が起きた時には、グールの資材集積所になっていた。
その中に突入した兵士とグールが戦っていたが、冒険者達が突入した。しかし1体のグールは、木箱を抑えており、その木箱の中には、何かが閉じ込められているようで、内側から叩かれている音がした。

冒険者達とグールの戦闘は冒険者達の勝利に終わった。

箱の中には、哀れを誘うような鳴き声が聞こえ、開けてみると犬だった。
冒険者は当然怪しみ、Detect alignment をした結果、Evil だったので、足を縛り拘束しようとしたが、失敗し、戦闘がはじまった。

犬は正体をあらわした、上半身犬、下半身蛇の Esipil だったが、冒険者達が倒した (NE Outsider でサイコポンプの離反者)。

用務員室

過去視によると、アサイラム時代は、用務員室として使われていた部屋のようだ。上司に対する愚痴を恨みと怨念が渦巻いている。

あの冒険者達が活躍していたころには……当然用務員室としては使われていなかったようだ。見るのもおぞましい細長いトカゲで、体は緑色で極彩色、眼が4つ、明日6本の凶気に満ちた生き物が巣くっていたが、冒険者達が突入し倒したようだ。

通路

不自然に壊れている通路があった。

ここは過去視によると、壁を壊してグールが襲いかかってくるトラップのようだが、冒険者達は簡単に通り抜けたようだ。

(一人、壁から襲いかかってくるのを予想していたにも関わらず、愚かにも罠に引っ掛かっていた人がいたようだ)

台所

ここは台所として使われていたようだ。

過去視でみると……台所ではコック「カラブレン」が働いていたが、ザンダラスの信者に殺されて、そのまま死体が放置されていた。

そして、その後地震が起き、土砂が死体の上に積み重なった。

カラブレンの恨みに充ちた魂は Firepit に宿り、その場を通る人に吐き気を催させていた。

冒険者達は何度が通過したが、数回目、死体を探り当てて、埋葬することができたようだ。これにより、彼の魂は成仏したのだった。

カルティストキャンプ

大きな部屋に到着した。

既に人影もないが、かつてはカルティスト達がキャンプをしていたようだ。

過去視をしてみると……二人のカルティストが呼び出されて2階に上がっていった。……が其の後に悲鳴が聞こえ、そして死体だけがキャンプに戻ってきた。

場の雰囲気は変わり、皆おびえていた。

そして、ひそひそ声が聞こえてきた。ザンダラスのボディガードをしているのは、アグラルーミスだ……。伝説のシリアルキラーだ。

きっとスラッシュムーアで過去視を使えば、殺戮の様子が分かることだろう。また、2Fに上がれば……「今」キャンプに戻ってきた冒険者達が、その後どのような活躍をしたのか分かることだろう。

しかし、今日の私の過去視の能力はここで打ち止めのようだ。

まとめ

結論として、ここには私が探していたアーティファクトは過去にも、そしておそらく未来にも存在しなかった。

寿命なくなった私とはいえ、無駄な時間を過ごすことができない。

これ以上、あの冒険者達を追いかける必要はないだろう。栄光をつかむことを祈りつつ、ここで筆をおきたい。

Sptunika